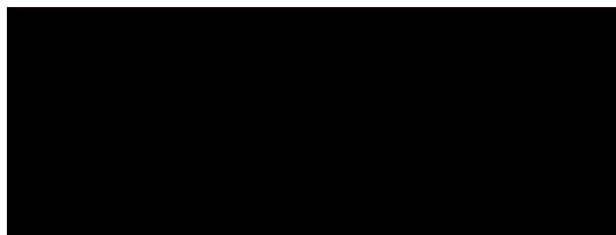


音楽科学習指導案



1 題材名 赤とんぼ

2 題材の目標

情景を思い浮かべながら、思いを込めて歌おう

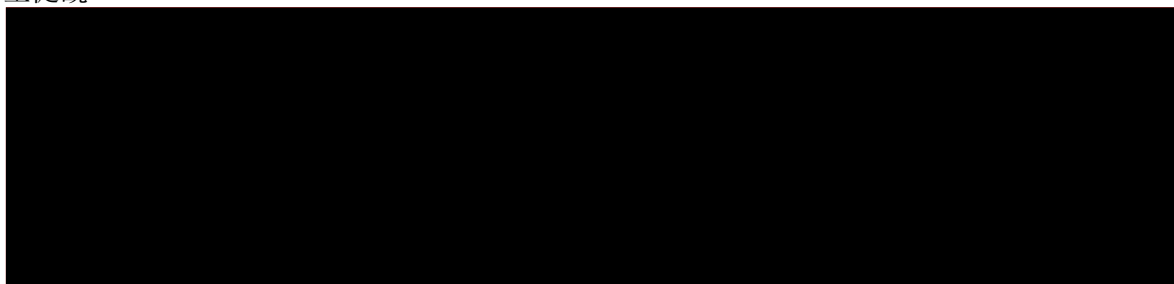
3 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領音楽第1学年「A 表現」(1) 歌唱の事項ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。」に基づいて構成されており、〔共通事項〕のうち、旋律、強弱等を扱う。

歌詞の内容に共感され、日本の情緒豊かな曲として、人々に親しまれてきた日本の代表的な童謡の1つである。ゆったりした速度で、言葉な抑揚に合わせて旋律がつけられているのが特徴である。歌詞は作詞者である三木露風自身の幼い記憶からつくられており、内容は抒情的である。

(2) 生徒観



4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
【関①】歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	【創①】フレーズ、旋律線のもつ方向性、強弱の変化を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	【技①】歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現にするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

5 題材の指導計画（総時数2時間、本時は1／2時間）

時	学習内容	評価方法
1	・歌詞の内容や曲想に関心を持つ。 ・フレーズ、旋律線もつ方向性、強弱の変化を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫する ・どのように歌うかについても思いや意図をもつ。	【観】（歌詞の内容や曲想に関心をもつ） 【創①】（観察、ワークシート）
2	・歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。 ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌う。	【関①】（観察、ワークシート） 【技①】（歌唱）

6 本時の指導

時間	学習内容	備考	評価方法
導入 20	・発声練習に校歌を歌う。 ・「赤とんぼ」を歌う。 ・「赤とんぼ」の旋律をピアノで弾き、生徒に歌ってもらう。	教科書	
展開 25	・作曲者と作詞者の説明 ・「赤とんぼ」の歌詞の説明をする。 ・学習シートを使い、「赤とんぼ」の詩の内容から、どのように思い込めて歌ったらよいか、フレーズをつなげて歌うところはどこか、考えさせる。 ・グループで相談しながら1番から4番までの歌の大きさについて考えさせる。	中学生の音楽学習1 教科書 学習シート	【観】 (歌詞の内容や曲想に関心を持つ) 【創①】 (観察、ワークシート)
終末 5	・グループで出た意見を発表してもらう。 ・次回の説明		